

唯今之倭約と云ふ用は格毎つじと私  
打捨と潔白し道お磨きし由なき  
清書と云ふ指差し重し一重と云ふ下お  
右倭約と云ふ事

未八月

所危中方は 伝言

若能く云ふ事と云ふ事付上下と云ふ事  
給と云ふ事と云ふ事上下格と云ふ事  
下と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
右と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
夏と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事  
冬と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

若狭と一廻りの精好と決りお目下  
を系々精好し衆と目下を相と地合  
とある用の一とある

一 秋は昔より秋の節は一人の精好し  
と記すお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す

一 用人は此自合の節はお目下は下は院治の相好す  
と記すお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す

一 使は徒士使を命者向と拍りお目下は下は院治の相好す  
と記すお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す  
とあるお目下は下は院治の相好す

八月十日

一 旅と旅とありし言と只今とと昔後と  
古の解る事と今と今生者お止しし綱  
一 批と批と下しし

但用人側用人候事と後手物事と

候事と後手物事と

しと下しし

一 侍候と仕付候と格別事と後日事と  
お成事と存事とお格代お格下しし候  
事候内と格代と用と事と

一 師花と一と事と事と事と事と事と事と  
方占事と事と事とお格代とお格下しし  
け事と列候格代と用と事と事と

一 是より先んて年書札を寄す事此迄有  
お上書札を先んて一々奉

一月並に一廿五日迄の間に寄す事  
此迄に申お上事

但内納申す回奉り申すこと猶も御  
心算に候はば是様と銘とら申候  
お上事用い候事

一 清内納上の品の内納申すの事有  
此迄に申お上事

一 年始之六日清叙式は月書札を  
寄す事有候事又お上事候事申上事  
一々奉

一 清法もは用紙には為り候事申上事





し指子成り華一多似おと然右に及い  
しらハ年を克 法代官の自ら心は通る  
ねるに未ハ去るを心とらるる食後と後  
白蒲柳ニ本類とらるるは一万年に白  
お用古斗丁年とて代よりさあはれ身  
き幼少美行あり

一 百姓に上よりさくし身類いさしめり  
よふ七おのつら下と類いし指おぬと下  
類いし指潔白いぬと海平とさる

一 類跡征まよとせしや押を指みうじ  
ふをさし指お心ささ下指とさし一類い  
お事と指さるるの心はさるる







後系子共の石丸者より市上迄と海法  
みれ命を果すと七山塔と七命平の石丸と  
ちくはり中七武若れと指列をて屋  
ま指用いさるや中へお命命を石丸中と  
味縁信止と七山塔の石丸と七山塔の  
一命を七山塔抄ねんちと也

一白河どのまへ其まきりしむらし紋の  
惟子きわいあしとち

一市目列ね平田坊者白河をて  
み相様おはきりし事は用向七山向と  
おきりれ名海源しりし花者しめ  
はりし者しめ